

『自動運転と法』

藤田友敬 編

2018年1月発売/306頁/本体 3900円+税
A5判/上製



編集
担当者
から

ハンドルやブレーキ操作などがいらぬ自動運転車の普及が現実味を帯びてきた中、事故などの際の法的責任のあり方が議論となっています。本書は、研究者・実務家によるこの問題に関する検討の成果をまとめ、公表するものです。実は、本書には前身というべき本があります。それは山下友信編『高度道路交通システム（ITS）と法——法的責任と保険制度』です（有斐閣、2005年）。当時と今で最も異なるのは、センサーなどの技術が格段に進化して、自動運転時代がいっそう間近になっているということでしょう。

先日の警察庁の発表では、2017年の交通事故死者数は3694人で、過去最少となったとのことでした。過去最悪だった1970年の1万6765人に比べれば大きな改善ですが、それでも全国でこれだけの悲劇が起きています。自動運転技術の進化とともに法整備も進み、交通事故が珍しくなるくらいの未来がくることを期待しています。（S）

Index



自動運転時代の法制度のあり方について、あらゆる角度からの検討がなされています。

第I部 自動運転の現況

- 第1章 自動運転技術の現況（杉浦孝明）
- 第2章 自動運転にかかる法制度の検討の現況（池田裕輔）
- 第3章 自動運転をめぐるドイツ法の状況（金岡京子）
- 第4章 自動運転をめぐるアメリカ法の状況（後藤 元）

第II部 自動運転と法制度——事故と補償を中心に

- 第1章 自動運転をめぐる規制上の問題（緒方延泰・嶋寺 基）
- 第2章 自動運転と運行供用者の責任（藤田友敬）
- 第3章 自動運転と販売店・メーカーの責任（窪田充見）
- 第4章 多当事者間の責任の負担のあり方（佐野 誠）
- 第5章 自動車のソフトウェア化と民事責任（小塚荘一郎）
- 第6章 自動運転と保険（池田裕輔）
- 第7章 自動運転をめぐる民事責任法制の将来像（藤田友敬）